

鳥大生が豊岡で体感した魅力と 課題の解決手法

2月19日、本庁舎庁議室で、鳥取大学地域学部が、本市をテーマに行った現地演習の報告会を開催しました。

昨秋、14人の学生が2泊3日の日程で本市を訪問。「自然との共生」と「芸術文化」の2班に分かれ、市役所や出石永楽館、田結湿地などを訪れ、関係者の話を聞くことで、地域の課題の把握とその解決手法などを学びました。

鳥大生の目に映った豊岡とは―参加した市民らは、豊岡の魅力や課題について改めて考える機会となりました。

《問合せ》環境経済課 ☎23-44480



▲「地方には何もないというが、視点をどこに当てるかで意識が変わる」と発表する鳥大生

2022年度から成人式は 二十歳を祝う会(仮称)に

本市では、2022年度以降の成人式を、当該年度に20歳を迎える方を対象に、1月に「二十歳を祝う会(仮称)」として開催することに決めました。

22年4月に施行される改正民法で、成年年齢が20歳から18歳に引き下げられます。成人式の開催時期等は、法律の定めがなく、自治体が地域の実情に応じて企画・実施しています。

多くの18歳は大学受験や就職準備の時期です。新成人がより参加しやすい時期に開催することにします。

《問合せ》生涯学習課 ☎23-0341



▲2019年度豊岡市成人式には対象者845人のうち727人が参加(市民会館)

市政 ニュース

〈主な市政の動き〉

【2月】

- 10日・豊岡市地域コミュニティビジョンを策定
- 11日・北近畿自治体合同キャリアガイダンス(福知山市)
- 12日・若い女性も住みたくなる豊岡をつくる「20代ワーカーシヨップ」
- 16日・とよおか地域づくり大会2020
- 17日・第4次とよおか教育プランを策定
- 19日・鳥取大学地域学部地域フィールド演習報告会

【3月】

- 1日・豊岡市新型コロナウイルス感染症警戒本部を設置
- 21日・日本・セルビア環境交流シンポジウムで中貝市長が講演(セルビア共和国)
- 25日・港東小学校と港西小学校の統合要望書を受理
- ・豊岡総合高校環境建設工学科3年生が市役所にベンチを寄贈
- ・第2期豊岡市地方創生総合戦略を策定



市内高校の卒業生に

まちの卒業アルバムを配布

この春、市内の高校を卒業し、新たなスタートを迎える748人に「まちの卒業アルバム」を配布しました。

冊子は、B5、36ページ。市内の高校3年生から応募のあった写真や各高校教員の応援メッセージの他、2016年度から18年度に「わかもの巢立ち応援プロジェクト」として、制作したポスターなどを掲載しています。いつまでも豊岡で育ったことを誇りに、豊岡のまちとの関わりを持ち続けてほしいとの願いを込めています。

《問合せ》環境経済課 ☎21-9096



豊岡だけの、まちの卒業アルバム「#豊岡卒アル」。



▲掲載写真の一部。市内の高校3年生から応募のあった高校時代の思い出の写真やメッセージ331枚を掲載

新型コロナウイルス感染症

市警戒本部を設置

本市では、兵庫県内で新型コロナウイルス感染症患者が確認された3月1日、豊岡市新型コロナウイルス感染症警戒本部を設置しました。

本部会議では、広く内外から集客する市主催イベントについては、2週間の中止または延期を基本とすることなどを決めました。なお、教育委員会では2月28日、市立小・中学校を、3月2日午後から15日まで、臨時休業とすることなどを決定しました。



▲第1回警戒本部会議では、市職員が感染した場合の対応も協議（3月2日、本庁舎庁議室）

中貝市長の徒然日記 ⑬

セルビア紀行

2月、セルビアに行きました。え？どこにあるかつて？南東ヨーロッパの、ハンガリー、ルーマニア、クロアチアなどに接した国です。旧ユーゴスラビアの中心でした。羽田からドバイ経由で首都ベオグラードまで20時間。わざわざ出かけていったのには、深い訳があります。

東欧民主化の動きを受けて、1990年、ユーゴスラビア連邦は分裂し、内戦状態になります。NATOが介入し、1999年、セルビアを空爆。このとき、首都に隣接するパンチエボ市も空爆を受けます。パンチエボは重化学工業地帯で、工場の化学物質が飛散し、環境汚染が起きました。環境改善は進んできましたが、なお汚染は残ったままです。これまで、ひょうご環境創造協会、JICAも支援を行ってきました。

そして、驚きました。コウノトリの野生復帰です。問題の内容は異なりますが、それを克服し、しかもコウノトリを育てる農業で環境と経済との共鳴を実現した地域があった！彼らは、大きな勇気を得て、セルビアに帰っていききました。

3年後、今度はセルビア側のリーダーであるベオグラード大学ヴラダ教授が市長室を訪問。2人は意気投合します。そして今回、さらに3年間の支援継続にあたり、コウノトリが飛来する自然公園の再生も目的に加えられ、プロジェクト全体が「コウノトリプロジェクト」と名づけられました。そのキックオフ・シンポジウムで豊岡の経験を話し、人々を鼓舞してほしい、との依頼がきたのです。

飛行機が大幅に遅れ、広大なドバイ空港を乗継機目指してひた走りに走り、預けた荷物には到着が2日遅れ、日本大使館主催の天皇誕生日レセプションに着ていくスーツは届かず、届いたスーツケースは破損というハプニングを乗り越え、ミッションは完遂されたのであります（つづく）。